

## 第三者意見

NTT西日本グループでは、「今一度、CSR活動について考える」をキーワードに、CSR活動の3つの柱として「コンプライアンスの徹底」「安心・安全な社会づくり」「事業を通じた価値創造」を構築し、グループ全体で実践し成果をあげています。

### 優れていると評価できること

まず第1は、経営トップのコミットメントとして、CSR活動の原点に立ち返り、「新たな3つの柱」が設定され、「西日本スピリッツ」「NTTグループCSR憲章」を基盤として体系化され、日々のCSR活動に活かされています。「新たな3つの柱」は、それぞれ「見える化」をめざして、具体的な26の指標を掲げて取り組んでいます。

第2は、基本に立ち返り「コンプライアンスの徹底」に取り組んでいることです。2009年度に他事業者情報の不適切な提供にともなう業務改善命令を受けたことによる真摯な反省に基づき、企業倫理の保持、情報セキュリティの推進、消費者保護、人権尊重と主要な課題をあげて取り組んでいます。このようにCSR活動の基盤として「コンプライアンスの徹底」に注力することは、組織力の強化につながります。

第3は、「お客様志向の企業グループ」「通信サービスを提供している社員一人ひとりがお客様に選ばれる」ことをめざして、グループ全体で、お客様・地域社会の安心・安全確保を推進しています。成果は、お客様の声をもとにさまざまな改善に結実し、事例紹介されています。このようにステークホルダーとの協働に積極的に取り組んでいる状況が浮き彫りになっています。

第4は、「事業を通じた価値創造」では、お客様、地球環境、地域社会、社員に対して、それぞれの目標を掲げて

具体的な価値創造活動を展開しています。特に、最先端の情報通信技術の提供は、まさに“本業に根ざした活動”として注目されます。環境経営の推進は、自然保護の活動、地域との連携した活動など、社員・家族の参加を得て、具体的な推進として成果をあげています。

### 今後の努力を期待すること

第1は、NTT西日本グループは、NTTグループの推進役として、時代の要請に対応したCSR活動の斬新な考え方を、引き続き打ち出すことが求められています。CSR活動の「見える化」と指標は、さらに成果を公開できるようさまざまに工夫することを望みます。

第2は、社会的責任の国際規格ISO26000が本年11月に発行されます。今後は、7つの中核主題である「組織統治、人権、労働慣行、環境、公正な事業慣行、消費者課題、コミュニティ参画及び開発」を意識したCSR活動方針と戦略を策定し、「安心・安全な社会」を実現するために、グループが一体となり使命感を持って取り組むことを期待しています。



東京交通短期大学 学長  
田中 宏司氏

#### Profile

1959年中央大学法学部卒。1954年～90年日本銀行勤務の後、早稲田大学講師等を経て、2002年～06年立教大学大学院教授。日本経営倫理学会副会長、経営倫理実践研究センター理事・首席研究員、経済産業省「ISO/SR国内委員会」委員等。著書多数。

## 第三者意見を受けて

NTT西日本グループでは、CSR活動の基本(前提)である「コンプライアンスの徹底」を第一に、「安心・安全な社会づくり」「事業を通じた価値創造」を3つの柱とした新たなCSR活動方針を構築し、具体的な取り組みとして、これまでのアクションプランを見直し、3つの柱に対応したCSR活動指標を26項目掲げ、社員一人ひとりが重要な事業課題であることを認識し取り組むことで、持続可能な社会の実現に貢献できる企業グループを

めざしてまいります。

今回、田中先生からいただいた貴重なご意見をNTT西日本グループのCSR活動に反映するとともに、情報開示のレベルアップにも取り組んでいきます。

最後に、今後の参考のため、本報告書に対する皆様からの忌憚のないご意見を頂戴できれば幸いです。

西日本電信電話株式会社  
総務部 CSR推進室